

テーマは「広島土砂災害」 復興デザインスタジオ開講



現地視察のもよう

東大復興デザイン研究体

復建調査設計㈱とアジア航測㈱が共同出資する東京大学「復興デザイン研究体」は、27年度の活動

計画に広島土砂災害を対象とする復興デザインスタジオを開講することを盛り込んだ。スタジオ演

習の中で、大学から現場に対してどのような提案ができるかを探りながら、大学としての知見も成熟させていく考え。2日には広島土砂災害の現地視察を行うとともに、住民代表との意見交換会も開催した。

同研究体では、大学院生向けのスタジオ型演習を開講している。スタジオには社会基盤学、建築学、都市工学の3専攻の学生が参加し、様々な災害復興について、現地調査から復興デザインまで、さらには都市的なスケールから建築的なスケールまで一貫して提案す

ることを特徴としている。

27年度は、調査対象の一つとして広島土砂災害を取り上げる。そのため、今回は事前リサーチとして、2日に担当教員及び院生が現地を訪問。土砂災害の現場視察及び行政・地元住民と意見交換を実施した。

演習は4月からスタートし、7月中旬に最終討議・審査を行う。その間、5月17日・18日には、参加する学生全員が再度現地調査を実施。最終案については、広島で開催されることになる報告会で提示する予定だ。

